

生物の好きな方
生物を学んでいる方へ

東京科学大学
生命理工学院
総合型選抜

ご案内

生命理工学院 総合型選抜は 生物で受験できる入試です

生命理工学院※ 総合型選抜は、生物を受験科目として学んでいる方、生物が好きで自習している方を対象にしている入試です。

生命現象を探究したいという意欲を持つ方、生命に関する知識を応用して新しい創造的世界を開拓したいという方、チャレンジングな理系精神を持って生命理工学を学びたい方、生物に秀でた素質が認められる方を求めています。

志望時に、生物が好きで取り組んだ学習や活動、授業や課外での取り組みや活動（生物に限定しません）、困難を乗り越えてやり抜いたことなどを記していただければ、評価対象として考慮します。

※学院：学部と大学院を統一し、教育カリキュラムを
継ぎ目なく学修しやすくしています。

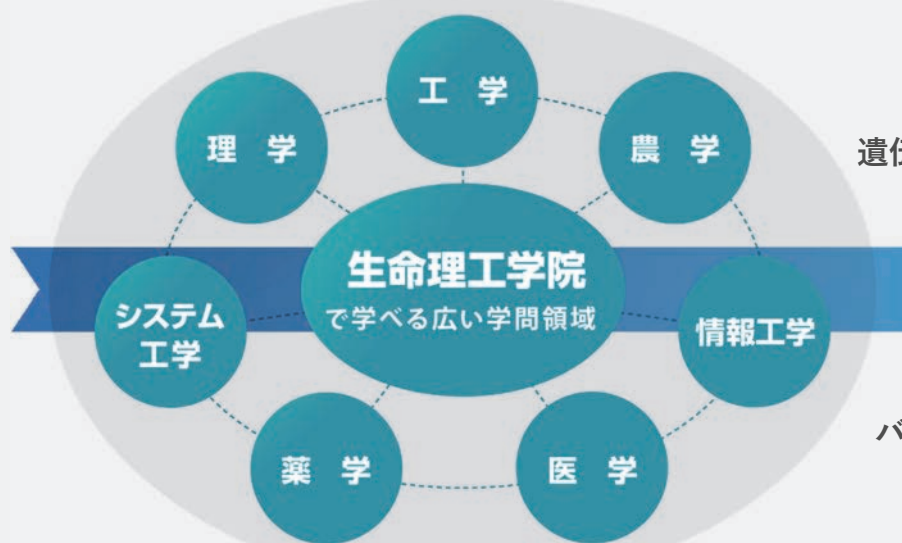
このパンフレット掲載
サイト www.bio.titech.ac.jp/outline/



生命理工学院では、
基礎から応用
ミクロからマクロ
基盤から革新的
まで多様な研究を展開していて、
生命に関する内容を幅広く学べます



基礎
科学



創薬 再生医療
遺伝子・ゲノム 治療法

生命の謎に迫り
新しい産業の創出
に貢献します

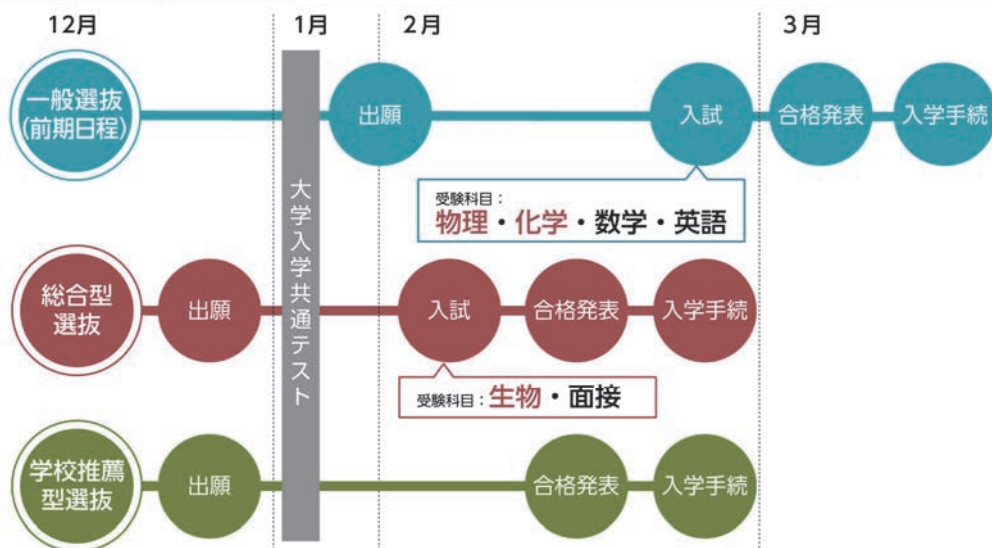
バイオIT 環境・エネルギー
食品・バイオマテリアル

入試情報

出願に際しては、各年度の入学者選抜

生命理工学院では、3種類の入試を利用できます。要項、募集要項を必ず確認してください。

生命理工学院	募集人員	内訳		
	150名	一般選抜(前期日程)	総合型選抜	学校推薦型選抜
		105名	15名	15名(一般枠) 15名(女子枠)



学士課程の入試詳細・最新情報については以下にアクセスしてください。

<https://admissions.titech.ac.jp/admission>



大学入学共通テスト

本学を受験するために必要な教科・科目(6教科8科目)

教科	科目
国語	「国語」
地理歴史 公民	「歴史総合, 日本史探究」, 「歴史総合, 世界史探究」, 「地理総合, 地理探究」, 「公共, 倫理」, 「公共, 政治・経済」から1科目
数学	「数学Ⅰ, 数学A」, 「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」の2科目
理科	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から2科目
外国語	「英語(リスニングを含む)」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1科目
情報	「情報Ⅰ」

配点

教科	国語	地理歴史, 公民	数学	理科	外国語※	情報	合計
配点	200	100	200	200	200	100	1000

※外国語科目として「英語」を選択した場合、

200点の内訳は【リーディング】100点, 【リスニング】100点とします。

なお、「英語」を選択し, 【リスニング】を免除された者は、

【リーディング】の配点100点を200点に換算した得点とします。

※共通テストでの旧課程履修者に対する科目選択の配慮の取り扱いについては、本年度の募集要項でご確認下さい。

共通テストの成績は、一般選抜では、第1段階選抜にのみ使用し、第2段階選抜には用いませんが、総合型選抜の第2段階選抜と学校推薦型選抜では評価に加わります。

総合型選抜

[総合型選抜] ウェブページ

一般枠: 15人

<https://admissions.titech.ac.jp/admission/college/ao.html>

2段階で選抜します。

第1段階選抜

志願者数が学院の募集人員の約2倍を超えた場合、共通テストの得点と出願書類を用いて第1段階選抜を行います。



第2段階選抜

第1段階選抜の合格者に対して行います。

第2段階選抜の配点は、 $\boxed{\text{総合問題(筆記試験+面接)}(100)} + \boxed{\text{共通テスト}(60)} = 160$ 点です。

筆記	生物に関する設問により、基礎学力、論理的な思考力及び記述力を評価します。
面接	生命理工学分野に対する志望動機、学習意欲、論理的な思考力及び適性を評価します。

第2段階選抜で利用する共通テスト 60 点の配点

教科	数学	理科	外国語	情報	合計
配点	20	20	10	10	60

学校推薦型選抜

一般枠: 15人, 女子枠: 15人

推薦要件

生命理工学院に対する明確な志望理由と学修の熱意を有し、学習成績・人物ともに特に優れる者
高等学校等での正規授業科目として、数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学C、数学Ⅲのすべてを履修している者

高等学校等での正規授業科目として、理科(生物, 物理, 化学)のうち2科目以上を履修している者

出願書類

志望理由書, 調査書, 推薦書

[女子枠のみ] 学修計画書: 目指す将来像と, それを実現するために入学後に学びたいこと, 取り組みたいこと, 挑戦したいこと等を記載してください。

推薦書類記載事項

推薦書には, 次の ①, ②, ③ (③は任意) の項目を記載してください。

① 3カ年にわたる各学年での学年全体での成績順位(何人中何位)。順位を決定していない場合は, 全体順位が分かる内容を記載してください。

② 志願者が推薦にふさわしい理由。

③ 補足として以下のような特記事項の例があれば, 記入してください。

- ・正規の授業科目の一環として実施した課題研究での主導的な役割, 優れた成果
- ・課外活動において実施した研究での主導的な役割, 優れた成果
- ・国際科学オリンピック等に日本代表として選出されたこと又は国内予選で優秀な成績を残したこと

選抜方法

共通テストの成績, 提出書類を総合的に評価し, 合格者を決定

[女子枠のみ] 学修計画書を評価対象に含める

WEB公開・配布予定

冊子名		公開・配布予定	媒体	
入学案内 2025		2024年7月頃	WEB 冊子	学長メッセージ, 学院・系の詳細, カリキュラムや支援制度の説明, 学生生活の紹介(学生へのインタビュー, サークルなど), 入試情報
入学者選抜要項		2024年7月頃	WEB	2025年度入試に関する各入試の詳細情報をまとめています。
学生募集要項	一般選抜 (前期日程)	2024年10月頃	WEB	インターネット出願 (冊子配布はありません)
	総合型選抜	2024年7月頃	WEB	インターネット出願 (冊子配布はありません)
	学校推薦型 選抜	2024年7月頃	WEB	インターネット出願 (冊子配布はありません)

※本学の総合型選抜と本学の学校推薦型選抜の併願はできません。

掲載ページ 入学案内: [学士課程の入試情報] サイト右上の [資料請求]
選抜要項, 募集要項: [学士課程の入試情報] > [募集要項]



[学士課程の入試情報] ウェブサイト:
<https://admissions.titech.ac.jp/admission/>



令和6年度

問題 1

以下の問 1～問 4 に答えよ。

問 1 植物は、子孫をなるべく多く残すための戦略を、生育する環境に応じて最適化させてきたと考えられる。例えば、おしべとめしべが同じ花の中に形成される被子植物には、花の中で自身の花粉と受粉（自家受粉）する種と、他個体の花粉と受粉（他家受粉）する種とが存在する。他家受粉が自家受粉と比較して有利な点および不利な点を 150 字以内で説明せよ。

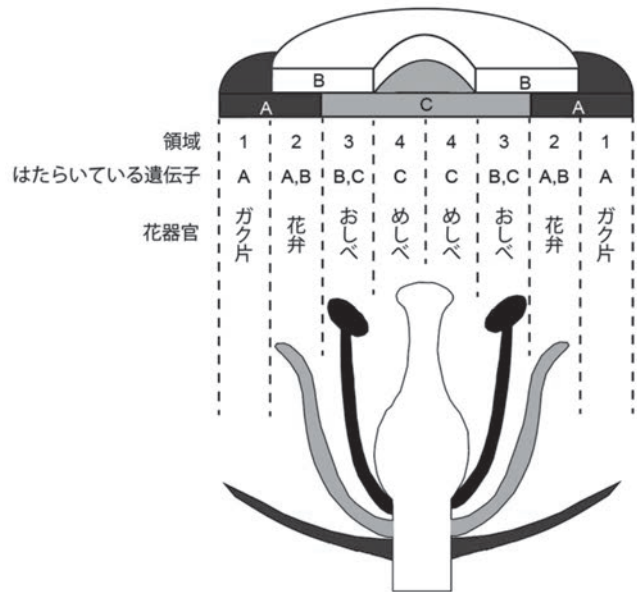


図 1

問 2 花は、ガク片・花弁・おしべ・めしべから構成され、茎頂分裂組織が花の原基に分化したのちそれぞれが形成される。この花の形成は、3 種類の調節遺伝子（A クラス、B クラス、C クラス）の働きでおこなわれ、その仕組みは「ABC モデル」と呼ばれている。図 1 に示すように、A クラス遺伝子が単独ではたらいっている領域ではガク片、A クラス遺伝子と B クラス遺伝子の両方がはたらいっている領域では花弁、B クラス遺伝子と C クラス遺伝子の両方がはたらいっている領域ではおしべ、C クラス遺伝子が単独ではたらいっている領域ではめしべが形成される。また、A クラス遺伝子と C クラス遺伝子は、互いの働きを抑制することが知られている。

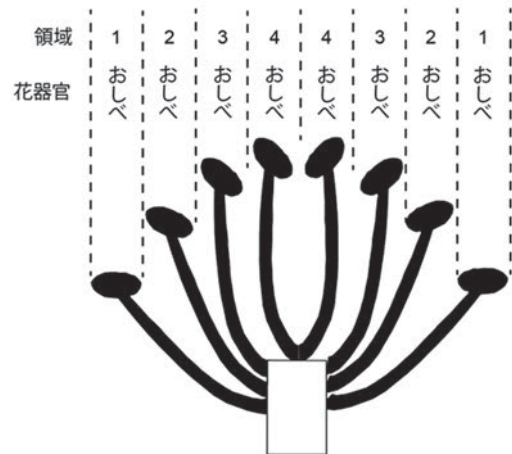


図 2

以上をもとに、遺伝子操作によって A クラス遺伝子を B クラス遺伝子で置き換えた組換え体の模式図を予想すると図 2 のようになると考えられる。このような形態の花になると予想される理由を 300 字以内で述べよ。その際、花の各領域ではたらいっているクラス遺伝子に言及すること。

問 3 植物は、葉で日長を感じとり、受粉に最適な時期になると茎頂で花を形成する。ある研究者は長日植物のシロイヌナズナを用いた実験により、連続した暗期が一定の長さ以下になると、タンパク質 X が葉で作られることを発見した。この結果から、「葉で作られたタンパク質 X は、(a)茎頂へ移動し、そこで(b)花の形成を促進する」という仮説をたてた。下線部(a)と(b)を検証する実験をそれぞれ立案し、合わせて 200 字以内で述べよ。

問4 植物の形態形成や生理的状态は体内で合成される様々な物質により調節されている。上記タンパク質 X 以外のそのような物質の中で植物ホルモんに分類される物質の名称をひとつ答えよ。また、その物質がどのような現象を調節しているかに言及し、その調節の仕組みを 200 字以内で説明せよ。

出題の意図

この問題は、植物の花の形成と受粉に着目し、動物と異なる植物の生育やその調節機構の理解度と、その生理的意義を考察する能力を問う問題です。

小問1は、自然界のさまざまな植物の生育環境を想像しつつ、受粉の确实性と遺伝的多様性の確保の重要性を考えながら回答してもらうことを意図しています。

小問2は、花の形成を説明する ABC モデルを理解しているか、またその理解に基づいて生物学的事象を科学的に説明できるかを見る内容になっています。

小問3は、ある仮説に対して、遺伝子組換え技術の知識を引用しながら、必要な実験を自分で立案できるかを見る内容になっています。

小問4は、植物の形態形成の調節機構の一例を答えてもらうことで、生物の体づくりに対する理解度を見る内容になっています。

問題 2

以下の問1～問5に答えよ。

問1 アロステリック効果により酵素の活性が阻害される仕組みと、それが細胞内において担う役割を、合わせて 150 字以内で説明せよ。

問2 ある酵素の遺伝子から転写される mRNA に相補的な配列を含む短鎖の RNA を細胞内で発現したところ、この酵素の生成量が減少した。その理由を考え、100 字以内で述べよ。

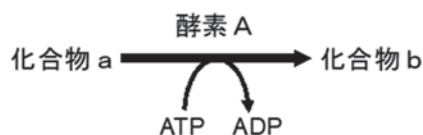
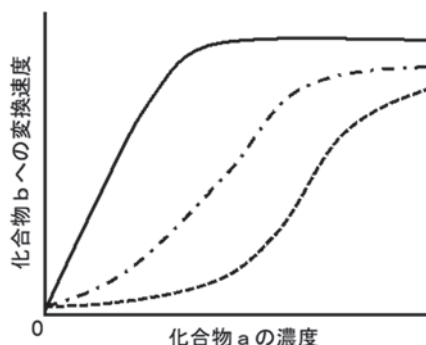


図 1

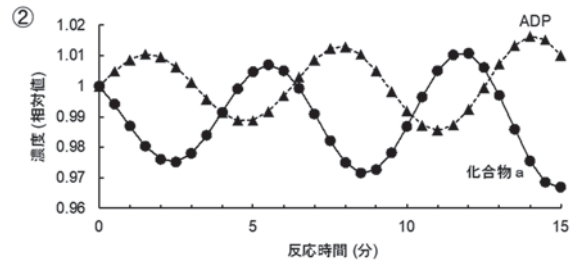
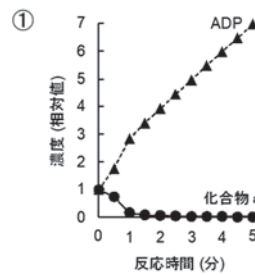
問3 図1のように、酵素Aは、化合物aを化合物bへと変換する反応を触媒する。この反応にはATPが必要で、化合物bへの変換にともない、ATPはADPになる。試験管内に、酵素A、化合物a、ATPを加えた反応溶液を調製し、ATPが低濃度の条件、ATPが高濃度の条件、ATPが高濃度の条件にさらにADPを添加した条件で化合物aの濃度をさまざまに変化させて化合物bへの変換速度を測定した。その結果、図2に示すような結果が得られた。ATPとADPが酵素Aの活性におよぼす影響を考察し、50字以内で述べよ。



——は ATP が低濃度の条件、
 -----は ATP が高濃度の条件、
 - · - · - は ATP が高濃度の条件に ADP を添加した条件での化合物 b への変換速度を示す。

図 2

問4 試験管内に、問3の実験で用いた酵素A、化合物a、ATP、およびADPを添加した反応溶液を調製した。この反応溶液に、ある一定量の化合物aを数秒間隔で添加し続けながら化合物bへと変換する反応をおこない、反応溶液中の化合物aとADPの濃度を経時的に測定した。その結果、図3①に示すように、反応開始後1分程度で化合物aの濃度がほぼ0となり、ADPの濃度は上昇し続けた。下線部のようになった理由を考察し、150字以内で述べよ。ただし、化合物aを添加し続けることによる反応溶液の体積変化は、無視できるものとする。また、反応が進行してもATPが枯渇することはないものとする。



「濃度 (相対値)」は、反応開始時の化合物aおよびADPの濃度を1とした相対値を示す。

図3

問5 問4と同じ実験を、あらたに酵素Bを添加しておこなった。その結果、図3②に示すように、反応開始から反応溶液中の化合物aとADPの濃度が周期的に振動する様子が観察された。酵素Bが触媒する反応を推定するとともに、化合物aとADPの濃度が周期的に振動する仕組みを考察し、合わせて250字以内で述べよ。ただし、酵素Bが触媒する反応の速度は、ADPの濃度に比例するものとする。

出題の意図

この問題は、細胞内の化学反応を触媒する酵素に着目し、酵素の特性や細胞における役割についての理解度や、酵素反応速度や酵素反応後の生成物濃度の測定データからどのような反応が起きているのかを考察する能力を問うものとなっています。

問1は、酵素の活性調節のしくみと、細胞内でそのしくみがどのように機能しているか、またそのしくみの必要性を考えて解答していただくことを意図しています。

問2は、短鎖RNA分子がタンパク質の合成(翻訳)に影響をおよぼすしくみについての理解度を見る問題となっています。

問3は、与えられた測定データから、酵素活性に反応液中の物質がどのように影響を与えるかを考察する力を見る問題となっています。

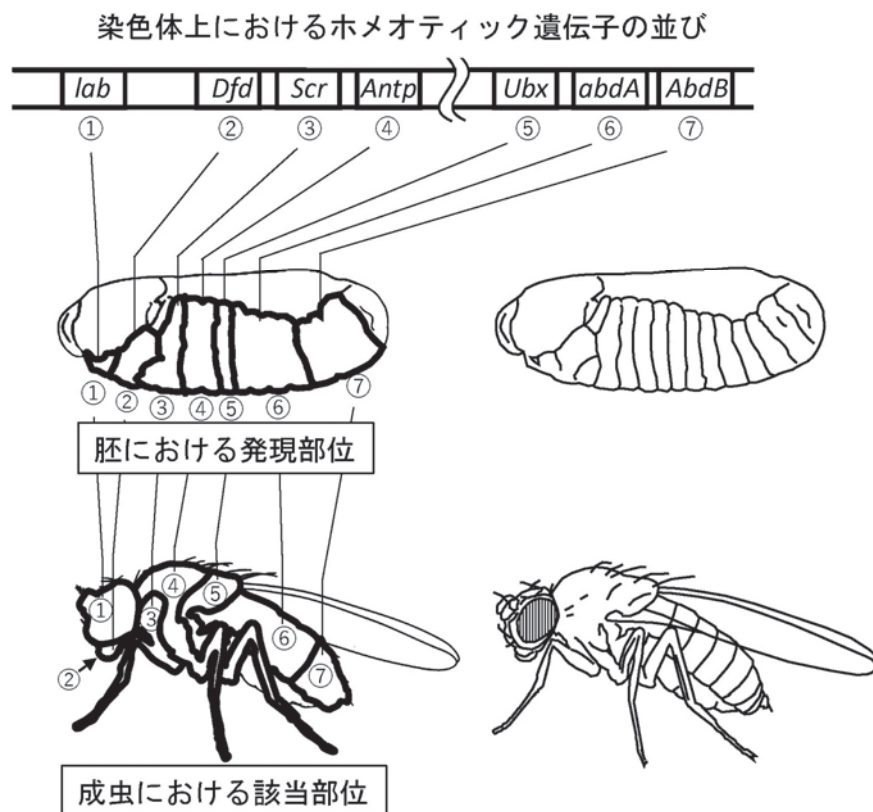
問4・問5は、問3の考察も踏まえつつ、与えられた測定データから、試験管内の酵素反応がどのように進行しているのかを考察し、説明する力を見る問題となっています。

令和5年度

問題 1

次の文章を読み、以下の問 1～問 3 に答えよ。

ショウジョウバエの体節の形態形成を制御する遺伝子として発見されたホメオティック遺伝子は、図のように複数の遺伝子が連続して染色体上に並んでいる（図の上段）。(a)これらの遺伝子は、胚においてそれぞれ異なった体節に発現する（図の中段）。各体節でこれらの遺伝子産物が異なった標的遺伝子を制御する結果、(b)成虫における各体節の形質が決定される（図の下段）。これらのホメオティック遺伝子の染色体上の順序を見ると、(c)頭から尾の体軸で遺伝子が発現する体節の順序と、染色体上の並び方の順序がほぼ一致している。ショウジョウバエのホメオティック遺伝子に相同な遺伝子は、ほとんどすべての動物で発見されており、Hox 遺伝子群と総称される。哺乳類の Hox 遺伝子群は、胚の中樞神経の分節（体節に相当すると考えられる）の形質を決めており、しかもその遺伝子が発現する分節の並びと、染色体上における並び方の順序は、ショウジョウバエの場合と同様にほぼ一致している。



図

（次ページに続く）

- 問1 下線部 (a) のように、ホメオティック遺伝子はそれぞれ胚の異なった体節に発現するが、これは細胞や組織ごとに異なった遺伝子の転写制御が染色体上で起こっていることに他ならない。ホメオティック遺伝子に限らず、特定の細胞や組織で特定の遺伝子が転写される仕組みを200字以内で説明せよ。その際、まず、真核生物の一般的な遺伝子の転写制御について「転写調節領域」と「基本転写因子」を使って説明し、次に、細胞や組織ごとに転写される遺伝子が異なる仕組みを説明すること。図を用いて説明してもよい。
- 問2 下線部 (b) のように、ホメオティック遺伝子は各体節の形質を決定する機能を有している、と言われている。一般的に、遺伝子Xが形質Aを決定していることを実験的に示すとき、形質Aの決定に遺伝子Xが「必要であること（取り換えがきかないこと）」を示すことと、形質Aの決定に遺伝子Xが「十分であること（形質Aを誘導することができること）」の2つを示すことが重要である。Antp 遺伝子を例に、Antp が④の体節の形質を決定する機能を有していることを立証するためにどのような実験をおこなえばよいか。Antp が「必要であること」と「十分であること」を示す実験を1つずつ考え、それぞれ100字以内で述べよ。
- 問3 下線部 (c) のように、複数のホメオティック遺伝子の発現領域を頭から並べた順序染色体上に配置されたホメオティック遺伝子の順序とほぼ一致している。遺伝子に関わるどのような現象が進化の過程で起きることで、これらの2つの順序が一致することになったのか、仮説を立ててそれについて200字以内で説明せよ。
- ただし、この問いに対する解答は現代生物学においても定まっていない。これまで学んだ生物学の知識を総動員して、論理的に述べよ。

出題の意図

この問題では、ショウジョウバエの形態形成に重要な役割を担うホメオティック遺伝子に着目し、真核生物の「遺伝子の転写制御」と「遺伝子制御による体節決定」に関し、「細胞内」と「体全体」という異なった縮尺上の知見を結び付ける力と、発生生物学上の未解決の問題を解くための考える力を問う問題です。

小問1 は、遺伝子が細胞や組織の特定の場所でどのように発現・制御されているのか、基本的な遺伝子の転写制御のメカニズムに留意して答えてもらうとよいです。

小問2 は、ホメオティック遺伝子の各体節を決定する機能を有していることを立証するための必要かつ十分な実験を、遺伝子組換え技術の知識も引用しながら解答してもらうことを意図しています。

小問3 は、考える力、応用する力、創造性を問う問題です。未解決の問題に対して、どのように取り組むかの問題解決力を見る内容となっています。全体的には自分の考え、アイデアを論旨がわかるように答えてもらうとよいです。

問題 2

次の文章を読み、以下の問 1～問 4 に答えよ。

「腐った肉は食べてはいけないが、肉は腐りかけがおいしい。」という人がいるが、腐りかけの肉は本当においしいのだろうか。もちろん、おいしいかどうかは人それぞれである。最近、ジビエ^{〔注 1〕}料理が流行しているが、その肉の味は捕獲状況や肉の熟成期間により大きく異なると言われている。例えば、(a) 動物が逃げ回った後に捕獲・屠（と）殺した直後の肉は酸味が強いと言われている。さらに、屠殺後しばらくすると肉は硬くなってしまふ。いわゆる(b) 死後硬直である。死後硬直は長くは続かず、筋肉は徐々に軟らかくなる。そこで、食肉は低温で貯蔵し、肉を軟らかくする。特定の菌種が存在している環境下で生肉を熟成すると、(c) 独特の香りと共にうま味が増し、さらにおいしくなると言われている。

〔注 1〕 狩猟によって捕獲された野生の鳥獣の食肉

- 問 1 動物が手足を動かすとき、神経末端から骨格筋に刺激が入り、筋細胞中のエネルギーを利用して、サルコメアが収縮する。骨格筋が刺激を受け、サルコメアが収縮するメカニズムをカルシウムイオンと ATP という 2 つの用語を用いて、200 字以内で説明せよ。
- 問 2 下線部 (a) で述べられているような状況による食肉はどのようにして酸味が強くなると思われるのか。通常の運動と逃げ回るといった激しい運動時のエネルギー産生の違いに焦点を絞って、300 字以内で論ぜよ。
- 問 3 下線部 (b) について、硬直するメカニズムを 200 字以内で推論せよ。
- 問 4 下線部 (c) について、一般的にどうしておいしいと感じると考えられるのか。熟成肉と腐った肉の違い、および、おいしいと認識される物質に注目し仮説を立て、200 字以内で説明せよ。

出題の意図

この問題は、日常生活の中で、科学的な見方や考え方ができているかを問う問題です。小問 1 は、筋収縮の仕組みに関する基本的な問題です。筋収縮が ATP のエネルギーを使い、ミオシンフィラメントがアクチンフィラメントに滑り込むこと、筋収縮はカルシウムイオン、トロポニン、トロポミオシンによって制御されることなど、筋収縮の仕組みの本質を理解しているかどうか、出題の意図となっています。

小問 2 は、野生動物が逃げ回る状態は十分に酸素を取り込むことができない無酸素運動であることを推測し、筋細胞が酸素を必要としない解糖によってグルコースから乳酸とエネルギーを産生することを解答してもらうとよいです。

小問 3 は、あまり馴染みのない死後硬直のメカニズムを、筋収縮の基本的な仕組みに留意して答えてもらうとよいです。

小問 4 は、熟成による旨み成分は特定微生物による芳香性物質の産生や肉のタンパク質の分解により生じるアミノ酸であること、また、微生物による発酵と腐敗の仕組みを理解して説明できているかが、出題の意図となります。

総合型選抜 [過去の入試問題・出題意図] ウェブページ

総合型選抜のページの下の方にあります。

<https://admissions.titech.ac.jp/admission/college/ao.html>



オープンキャンパス・説明会

高校生・受験生のみなさんを対象に、オープンキャンパス、学院・入試説明会、個別相談会などを開催しています。

<https://admissions.titech.ac.jp/admission/event/>



総合型選抜 面接問題 生物に関する設問, 過去の例

面接では、生命理工学分野に対する志望動機、学習意欲、これまでの取り組みなどに加え、生物に関する設問に答えてもらいます。以下は、その設問例です。

令和6年度

タンパク質のフォールディングとシャペロンとは何かについて説明して下さい。

アポトーシスについて知っていることを説明して下さい。

令和5年度

新型コロナウイルスに対するワクチンが話題になっています。ワクチンが感染症を予防するメカニズムを説明して下さい。

神経細胞における樹状突起と軸索の違いを説明してください。

令和4年度

RNAの種類を3つ以上挙げ、それらの機能について説明してください。

または、RNAがかかわる機能について説明してください。

がん細胞と正常細胞の違いを挙げ、がんの引き金にはどのようなものがあるか(なぜ異常増殖するか)について説明して下さい。

令和3年度

体細胞分裂と減数分裂の違いについて説明して下さい。

遺伝子操作の方法について、あなたが知っている方法について説明してください。

令和2年度

酸素呼吸と光合成の分子レベルでの共通点と違いを説明してください。

老化のメカニズムについて、あなたはどのように考えますか。

平成31年度(令和元年度)

多細胞生物では、離れた場所にある細胞に情報を伝えるとき、液性因子を使うことがあります。このような液性因子のことを何と呼びますか。

概日(がいじつ)リズム(サーカディアンリズム)とは、生物の活動がほぼ1日を周期として変化するリズムのことをいいます。生物にとって概日リズムが果たす役割や、概日リズムを刻むことができる機構について、あなたの考えを話してください。

出題の意図

「生物」を勉強していれば答えられる問いと、深く勉強しているか・思考力があるかの問いとを組み合わせるようにしています。

「生物」を学んでいるか、考えられているかを問う設問ですから、直接の答えが思いつかないと思った時は、質問に関連したことで、学んで来たこと考えていることを答えてもらうようにしていただければ構いません。日頃の学習に取り組んでもらうことが意図です。

生命理工学院では1年次に物理学を必修科目として学びます

受験で物理を選択しなかった総合型選抜入学生対象に、物理相談教員などサポート体制を整えています。大学の物理は、数学に近くなり、考え方のコツをつかんでもらうと、わかりやすくなります。毎年、総合型選抜入学の皆さんも、物理の単位を取得して、新しい学びを広げています。

東京科学大学と生命理工学院のご紹介



TAKI PLAZA

大岡山キャンパスの新しいランドマーク
— 学生主体の「つながる」場を実現 —

TAKI PLAZA 紹介ビデオ

Taki Plaza バーチャルツアー/ホームカミングデー



高校生・受験生向けサイト

教育・研究・キャンパスライフの詳しい紹介と、入試情報のサイトです。

<https://admissions.titech.ac.jp/>

手厚い支援体制

学修・学生生活・バリアフリー・こころの相談・経済的の各種にわたって、充実した体制でサポートします。

豊富な留学プログラム

東京科学大学は学生の海外留学を応援しています。

充実した文系科目

オンライン講義紹介。初年次「立志プロジェクト」2020年度 池上彰先生



生命理工学院公式ウェブサイト

教育・研究, 学生の活躍, 入学案内など。

<https://educ.titech.ac.jp/bio/>



生命理工学院の受験を考えている方へ

生命理工学院 詳細情報サイト

<http://www.bio.titech.ac.jp/outline/index.html>

学士課程の受験生向け資料集

各種パンフレット。Open campus 資料, 動画。



キャンパスライフ

学生寮・住まい, 学費・奨学金, 授業・履修, 学生生活支援の各種情報へのリンク

女子学生も安心して学べます

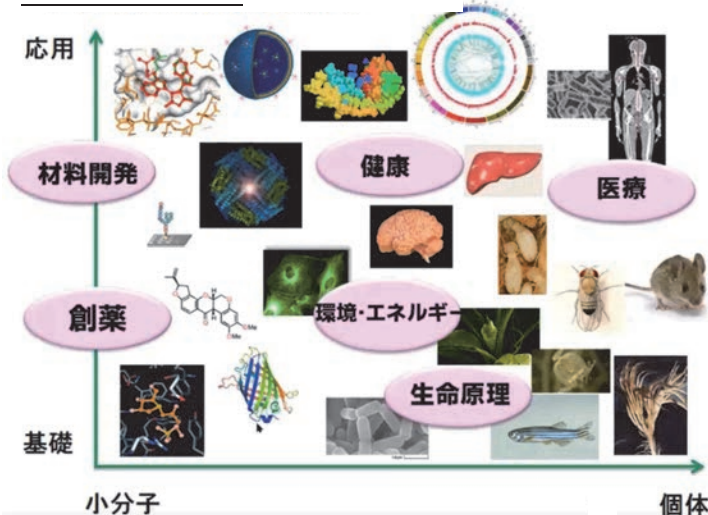
- 生命理工学院は、東京科学大学の中でも女子学生が多い。学士課程で約1/4, 修士課程で約1/3。
- サポート体制が充実

広報誌『女子高生のための東工大BOOK』

<https://www.gec.jim.titech.ac.jp/promotion/jkbook/>



多彩な研究分野 80 研究室



生命理工学院では、生命に関わる様々な領域で、
世界最高レベルの研究・開発を推進し、
数多くの優れた成果を打ち出しています。

2016年ノーベル生理学・医学賞受賞 大隅良典栄誉教授からのメッセージ

科学は人類が営々として築き上げてきた知の体系ですから、私達科学を志す者も、自分が生きている時代と切り離すことはできません。私がオートファジーとよばれる生命現象に



興味を持ち、酵母を使ったのも、その1つの例です。自然界の成り立ちに対する私達の理解は加速度的に広がっていますが、まだまだ沢山の未解明の問題があります。解けたと思ったことも、それは次のステップの始まりにすぎません。科学や技術がもたらしてきた成果だけに眼を奪われることなく、科学的な思考と大きな視野が、今後の人類の未来に大切であると私は思っています。

私からの若者へのメッセージは、未来に向かって思考しようということです。自分の前に何か凄い権威が有るように見えるとすれば、それは学問が停滞していることを意味しています。先達を越えて行くのは当たり前だという若者の気概こそが、前進の駆動力だと思います。今日の膨大な情報に惑わされず、そして周りを気にせずに自分の興味や考えを大切に育てて下さい。そして自分自身が納得できる人生を、豊かに逞しく生きて欲しいと思います。

生命理工学院パンフレット「生命理工学へのご招待」より
<https://educ.titech.ac.jp/bio/publications/>

問合せ先

東京科学大学 学士課程 入学試験に関すること

[入試課] e-mail: nyu.gak@jim.titech.ac.jp



生命理工学院・生命理工学系 公式ウェブサイト

教育, 研究室・研究紹介, ニュース, 入学案内一覧・新着Topics, 広報誌など, 生命理工学院に関する情報がまとまっています。

右上の[系詳細情報]からは、「生命理工学院の受験を考えている方へ」

や「学内教育プログラム」などの情報を閲覧できます。 <https://educ.titech.ac.jp/bio/>



